

第101回全国高等学校サッカー選手権を終えて 近江高校

2022年12月28日より首都圏で開催された第101回全国高等学校サッカー選手権大会に2年ぶり2回目の出場となりました。2回戦からのスタートとなり、対戦校は埼玉県代表の昌平高校。夏のインターハイ3位、関東プリンスリーグ1位、プレミアリーグ昇格と実績十分で、大会前には優勝候補にもあげられた強豪校です。対戦校が決まり、選手、スタッフは物怖じするよりも全国の舞台で強豪校と真剣勝負できる喜びとここで勝利できれば全国にインパクトを残すことができると意気込み、当日まで準備をしました。

迎えた12月31日2回戦。会場、大宮NACK5スタジアムは約6,000人の観客のもと、一部の声出し応援も可となり、最高の雰囲気で開催されました。

前半から前線でアグレッシブにプレスをかけ、丁寧にボールをつなぎ相手コートでの時間を増やせるように戦いました。コンパクトにボールを奪えた部分、局面でいなせた部分もありました。しかし前半から相手チームの技術、局面での強さ、大舞台でも落ち着いた雰囲気ゲームをコントロールする相手に少しずつ押し込まれる展開となりました。何とか前半をスコアレスで折り返しましたが、迎えた後半15分、相手コーナーキックをクリアしたこぼれ球を拾われ、放たれたミドルシュートが決まり、先制されました。それでも、後半21分に左サイドを突破した折り返しをシュート、一度は相手GKに止められますが、こぼれ球を押し込んで同点。この同点ゴールは今シーズンの大きな狙いであった一度のプレーで終わらずに連続してプレーするという狙いが集約されたゴールでした。大舞台で年間を通

じてトレーニングしてきた形が出せたことは現3年生を中心に練習から手を抜かず真剣に取り組んだ証であると思います。同点に追いつき、一進一退の攻防となった残り5分。一瞬の隙をつかれ、失点。終了間際にも追加点を奪われ、試合は1-3で敗れました。

滋賀県の代表として勝利という結果につなげることができなかったことを非常に悔しく思っております。今大会から得た経験や反省を活かし、県内の大会を勝ち抜き、全国の舞台でも勝てるチーム作りができるように精進していければと思います。

最後になりましたが、近江高校を日頃からご支援いただきありがとうございます。滋賀県サッカー協会をはじめ、多くの指導者、関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。



小さなきっかけが大きな夢に 1級審判員 原田 雅士

2017年12月に1級審判員に登録されてはや5年。兄の影響でサッカーを始め、毎日ボールを蹴っていた幼少期～高校生になるまで自分がサッカーの審判員になることは想像もしていなかった。

草津東高校サッカー部に憧れて入学。100人を越える部員、エリート軍団の中で何も通用しなかったことを今でも覚えている。そんな時に2種審判委員長をしていた恩師から『高校生で3級審判員を養成するレフェリースクールが始まる』と自分がなぜか抜擢され、資格を取得した事が審判を始めるきっかけだった。しかし、選手としての気持ち強く、審判することに抵抗感を持っていたが高校卒業後、サッカー熱が冷めていた自分にJリーグ審判員の今村氏、村井氏から『一緒にJリーグで審判

をしよう!』と声を掛けて頂いた。それから火がついたように審判にのめり込み、いつしか審判で活躍すること、Jリーグ、世界の舞台で審判をすることが自分の夢に変わっていった。日に日に審判の楽しさや面白さ、達成感を感じられるようになり、大学時代はFC草津テルフィー(滋賀県社会人リーグ1部)で選手をしながら審判活動に明け暮れた。

2017年関西で1級候補に推薦して頂き、大学院卒業と同時に1級審判員の資格を取得。そこから5年。全国各種リーグ・大会、JFLを経てJ3主審としてJリーグの舞台に挑む。

どのカテゴリーにおいても審判員として大切にしていることは選手の安全を守り、円滑に試合運営をしてサッカーの魅力を最大限に引き出すこと。将来は日本のトップリーグを担当して日本サッカーの向上に貢献できるように、また自分が育った故郷滋賀のサッカーの発展に協力したいと考えている。

これまでご指導、応援、サポート頂いた家族・仲間、サッカー関係者、滋賀県、関西審判委員会の皆様に深く感謝申し上げます。引き続きご指導よろしくお願い致します。

最後に滋賀県サッカーがより発展するように、また2025年開催の滋賀国スポをサッカーファミリーの皆さんと成功に導けるように大きな輪を作りながら協力していきましょう!



表彰受賞			
秋の褒章	藍綬褒章	石田 和成	(県サッカー協会 理事)
滋賀県スポーツ協会	スポーツ功労賞	福島 隆志	(県サッカー協会 理事)
滋賀県スポーツ協会	スポーツ奨励賞	光吉 英宣	(県サッカー協会 理事)

Soccer News SHIGA

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地 TEL:077-585-0982 FAX:077-585-0983

2023.3 No.66

発行 公益社団法人 滋賀県サッカー協会
責任者 会長 前田 康一
shigafa@oregano.ocn.ne.jp
https://www.shigafa.com/

【訃報のお知らせ】

令和4年12月20日に滋賀県サッカー協会会長 藤澤輝彦氏が逝去されました。
生前のご厚誼を深く感謝しご冥福をお祈り申し上げます

会長に就任して

公益社団法人 滋賀県サッカー協会(SFA) 会長 前田 康一

この度、藤澤輝彦会長のご逝去により、その後任として会長職を引き継ぐことになりました。微力ではありますが、誠心誠意、本協会の発展に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本協会の当面の目標は、2025年に開催されます第79回国民スポーツ大会および第24回全国障害者スポーツ大会を成功させることです。特に、国民スポーツ大会においては、本協会が長年育成してきた選手の競技力が試される絶好の機会です。ぜひ、サッカー競技の総合優勝を目指すとともに、滋賀県の天皇杯・皇后杯の獲得に貢献できるよう、選手や指導者の皆様には頑張ってもらいたいと思います。また、この大会には、全国から多くの選手や役員、観客が来県されます。来県された選手がその力を十分発揮できよう、会場設備などの準備を関係自治体と協力して進めていきたいと思っております。

県内でのJリーグの開催は本県の長年の夢ですが、県内の現状をみた時に、Jリーグや日本代表の試合、国際大会を開催できるサッカースタジアムがありません。また、JリーグやWEリーグ、なでしこリーグに加盟するチームの誕生もまだ実現しておりません。しかしながら、選手の育成については滋賀県の各種別や連盟の指導者や関係者の皆様方のご尽力により全国的に高く評価をされ、日本代表や世界各国のリーグやJリーグで活躍している本県出身の選手をたくさん輩出しています。将来、このような選手が、滋賀県のスタジアムで活躍することを夢見て、施設整備などを進めていきたいと思っております。

最後になりますが、本協会の理念である「サッカー競技の普及、発展を図ると共に、県民の豊かなスポーツ文化の振興、心身の健全な発達に寄与する。」ことを常に意識しながら取り組みを進めていきたいと考えております。

今後とも、ご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

「次の世代 しっかりやれ」～藤澤会長を偲ぶ～

公益社団法人 滋賀県サッカー協会(SFA) 副会長 岩崎 崇

10月末、藤澤会長にスポンサー回りを教わりました。協会の重要な仕事です。何もわからず名刺交換するだけでしたが各社に丁寧に紹介いただきました。その時「これがあるから検査入院遅らせた。」と笑っておられました。

11月2日入院、毎日電話連絡。面会できずですが荷物の交換でお会いしていました。

毎回、滋賀FAの話しと関西FAの話しです。病床からでも、次の事業の細かい指示、各会議の提案、対応すべてメモ紙で受け取りました。順調に仕事は回っており私も安心しておりました。冗談話も普段通り元気に岩崎をいじってくれました。

12月12日、藤澤会長が自宅に帰られました。すぐにお会いしに行っておくさんしゃべりました。その際も関西FAの仕事をされておられました。「土日また来てや」

最後の言葉でした。8日後、安らかに旅立たれました。

振り返れば、私が守高の監督時、守山高OBの藤澤会長に本当に温かい言葉をかけていただきがなげばれました。また私と太田氏(現事務局長)がインストラクターの時、藤澤会長は各講習会の最終日、多大の差し入れで懇親会の場を作ってくださいました。その絆は今でもつながっております。そして私が技術委員長の時は、いち早くJFAから情報を入れていただきユース部会、リーグ戦の整備を実現することができました。感謝しかありません。

2か月弱で、さっと旅立たれたのは「次の世代 しっかりやれ」のメッセージやっただけ私には思いません。悲しんでばかりの暇はありません。次の世代の皆さま、藤澤会長の遺志を引き継ぎ滋賀のサッカーの発展のために全力でがんばっていきましょう。よろしくお願いいたします。

第32回全国専門学校サッカー選手権大会

ルネス学園 城山 昌人

資格取得、実習、研修など実践教育を行う場である専門学校としては、関係各施設へのコロナの影響を考慮し、第30回、31回大会を中止としておりました。

そして今年度3年ぶりに開催された第32回全国専門学校サッカー選手権大会が2022年10月2日から6日まで福島県のJヴィレッジで開催されました。

学生にとっては3年前の大会を経験しているものはおらず全員が初出場の大会となりました。大会を開催できる喜びと、プレーできることへの感謝の気持ちを持って大会に臨んでくれた各代表校の監督、コーチ、選手達が大会を大いに盛り上げて

くれました。

我々ルネス学園は大会を1回戦から順調に勝ち上がり得点21点、失点2で決勝戦に臨むこととなりました。決勝は同じ関西代表の履正社医療スポーツ専門学校との対戦となりました。関西大会では9-0で勝利しており引き締めて試合に臨みましたが終始ボールを支配し続けシュート数23本、被シュート数2本で5-0で勝利し、通算12回目の全国優勝となりました。

今年のチームは年度当初から12月に行われる関西府県リーグで優勝し関西サッカーリーグへ復帰することをチームの目標に掲げているため、この大会期間中もテーマを持って大会に臨んでくれました。その結果、決勝戦では次につながる試合ができましたが最後のフィニッシュで課題が残る大会になりました。

来年度33回大会は大阪堺市J-GREEN堺での開催となります。まだまだ全国的に医療系の学校などでは実習やクラブ活動の自粛もあり思うように活動ができていない学校があります。だからこそ参加できている学校が大会を盛り上げて次の大会に繋げていければと考えております。我々ルネス学園も大会の質や知名度をさらに上げていき今後、50回そして100回と続く大会にしていかなければならないと使命感を持って参加していきたいと考えています。

最後になりましたが、大会に参加するにあたり関係各所から応援を頂いたこと誠にありがとうございます。



第71回全日本大学サッカー選手権大会を終えて

びわこ成蹊スポーツ大学 コーチ 石間 寛人

3大会連続での出場となった今大会は、関西学生リーグを2位で勝ち上がったことにより1回戦はシードとなり、2回戦からの出場となりました。初戦の相手は、奇しくも夏の総理大臣杯の準々決勝でも対戦し、苦しみながらも勝利した新潟医療福祉大学。

試合開始からリベンジに燃える相手に押し込まれる展開が続く、なかなか攻撃の形を作れずにいると、26分に自陣でのビルドアップのミス突かれ先制点を許す。しかしながら、31分、左サイドからMF泉柊椰(4年・ヴィッセル神



©Nozomi FUJITA

戸加入)が切り込み同点に追いつく。さらにその2分後、FW石橋克之(3年)が放ったシュートがポストに当たり、跳ね返ったボールをMF高見柊真(4年)が押し込み一気に逆転に成功し、前半を折り返した。

後半開始からDF山田祐樹(4年・FC大阪加入)を投入し、守備の安定を図り追加点を奪いに行くも、立ち上がり連続して訪れた決定機を決めきれない。逆にゴール前で相手にFKを与え、これを決められ同点に追いつかれる。73分には中盤でのボールロストから、一瞬の間隙を突かれ逆転を許した。試合終了

間際、立て続けにチャンスを迎えるも、相手の堅い守備に阻まれ、試合終了。今シーズン2度目の日本一への挑戦は、初戦で幕を閉じました。

大会を終え、我々に勝利した新潟医療福祉大学は決勝まで勝ち上がり、準優勝という成績を収めました。優勝は決して届かない目標ではないものの、やはり日頃から今まで以上に細部にこだわり、試合以上に強度の高いトレーニングが必要であると実感しています。

最後になりましたが、全国大会への出場に際し、滋賀県サッカー協会をはじめ関係者の皆様には多くのご支援・激励をいただきましたこと心より感謝申し上げます。2023シーズンはより明るい話題を届けられよう精進してまいります。



©Nozomi FUJITA

第46回全日本U-12サッカー選手権大会を終えて

A.Z.R(アッズーロ)監督 古荘 隆徳

この度、滋賀県代表として2022年12月26日~2022年12月29日に第46回全日本U-12サッカー選手権大会が鹿児島県で開催され全国第3位の成績を収めることが出来ました。

2年ぶり2回目の全国大会出場となりましたが前回はコロナ感染防止の為に開会式が開催されませんでした。今大会は前日の夕方から開会式が行われ選手、指導者の全員参加し開会式のセレモニーが進むにつれて明日からの予選リーグに向けてモチベーションアップになりました。その後のミーティングではサッカーを楽しむこと、A.Z.Rらしく自ら考えプレーや行動をすることを再確認し大会に臨みました。

【大会結果】

<予選リーグIグループ>

- ・vsレノファ山口ウエストFC(山口県代表) 3-0 ○
 - ・vsツエーゲン金沢(石川県代表) 5-1 ○
 - ・vsヴェルフェ矢板(栃木県代表) 1-2 ×
- ※予選リーグ2勝1敗で2位でしたがワイルドカード1位で決勝トーナメント ラウンド16に進出しました。

※ワイルドカード→予選リーグ2位のチームで成績上位4チームが決勝トーナメントに進出

<決勝トーナメント>

- ・ラウンド16 vsヴァンフォーレ甲府U-12(山梨県代表) 2-1 ○
 - ・準々決勝 vsSCH FC(神奈川県代表) 0-0 (PK3-2) ○
 - ・準決勝 vsレジスタFC(埼玉県代表) 1-6 ×
- ※全国8,159チーム中の3位でフェアプレー賞を受賞しました。



今大会は初出場の時と違いスタッフにも余裕があり良い準備で大会に望むことが出来ました。初戦の開始早々に先制点を奪いその後も得点を積み重ね初戦を勝利すると続く2戦目も5得点を奪い勝利することが出来ました。どちらもJ下部組織の強豪でしたが臆することなく堂々と選手達は戦ってくれました。初戦の入り方の重要性や選手のモチベーションの上げ方、選手とスタッフのコミュニケーションなど全員で勝ち取った勝利でした。

勝ち引き分けで予選1位通過が決まる3戦目は勝ちを意識するあまり縦に急ぐシーンが多くなり相手のカウンターで2失点しました。終了間際に1点を返しましたが試合終了となり予選2位で予選リーグを終えました。予選順位の決まる3戦目の難しさを感じました。敗戦後に選手達が泣き

崩れるシーンを目の当たりにしてこの今大会にかける思いを感じ、選手達ならもつと上で戦えると思いました。

A.Z.Rは予選2位の1位でラウンド16に進出しました。ラウンド16の初戦はJ下部組織のヴァンフォーレ甲府でした。技術力とフィジカルの優れた選手が多く苦戦が予想される戦いになると思いましたが、選手達は果敢に戦い今までの経験や練習したことをピッチで表現し躍動してくれました。今大会A.Z.Rのベストゲームだと僕は思います。

準々決勝は優勝候補の神奈川県代表SCHと対戦でした。試合会場や雰囲気も変わり緊張感を感じる中での戦いでした。ベスト8の戦いになると、どのチームも技術力やフィジカルだけでなく、チーム分析や選手のサッカーに対する理解力など今までの対戦相手にはないチーム力や個人能力を感じました。ただA.Z.Rの選手達も自分らしさを忘れず持って力をぶつけてくれました。PKで勝利した時は感動しました。

準決勝の相手は前年度チャンピオンのレジスタFCでした。1対1の強さ、スピード、メンタルの全てで圧倒されました。ここ1年で6失点はこのチームで体験のないことでした。全国で優勝するチームと対戦出来たことは選手、指導者ともに良い刺激になり新たな目標となりました。

当初の目標はベスト8でしたが目標を大きく上回る全国3位の成績を終えることが出来ました。この1年、選手達は色々な大会参加し色々な経験をしました。県外の強豪に勝利し良い成績を残すことで技術力やメンタル強化、戦術面の向上に繋がりが全国で戦える自信を付けました。オフザピッチでも選手達が自ら考え行動出来るようになり、仲間と共に助け合い色々なことが出来るようになりました。遠方への送迎、日々の選手の体調管理など保護者様にはご理解とご協力を頂きサポートして頂きました。選手・保護者様・スタッフが丸となり掴んだ全国3位だと思います。

素晴らしい環境で有意義な時間を過ごせたことに指導者としてこれまでお世話になった全ての方に感謝しかありません。今後チームとしても選手と共に成長し新たな歴史を作りたいです。全国大会での経験を滋賀県や関西の発展の為に微力ながら発信していけたらと思います。

最後に滋賀県サッカー協会をはじめサポートや支援をして頂いた全ての方に御礼申し上げます。

